

チャンス・チャレンジ・チェンジ

秋田県立支援学校天王みどり学園 加賀谷 勝

高等学校における特別支援教育の現状

本校では昨年度から年2回、近隣の高等学校（金足農業高等学校、秋田西高等学校、五城目高等学校、男鹿海洋高等学校、男鹿工業高等学校）の特別支援教育コーディネーターに集まいただき、「高等学校特別支援教育連絡会」を開催しています。特別な教育的ニーズのある生徒への支援状況について情報交換を行い、自校の支援体制の強化を図ることが目的です。本校にとっては、高等学校の特別支援教育の現状を知るとともに、交流及び共同学習やボランティア養成講座への要望を聞くことができる貴重な機会になっています。

今号では、本校で2月14日に開催した本連絡会の内容を紹介します。



【各学校の現状と課題】

- ・学力的には問題はないが、行動・生活面でつまずく生徒が増えてきた。
- ・不登校になる生徒がいるが、その背景に発達障害が関係しているケースがあると感じている。特に対人関係でうまくいかない生徒が多い。
- ・特別な支援を必要とする生徒の背景が複雑化している。（家庭問題、貧困問題、発達障害、二次障害、精神疾患等）
- ・学年や学科ごとに動くことが多いので、チームで対応している。
- ・学校では支援をしたいが、生徒や保護者が特別な支援を望まないことが多い。
- ・保護者が病名を伝えない、進路選択が迫る3年生になってから伝えてくるケースがある。
- ・中学校からの申し送りが少ないので、高校から連絡を取って情報を入手している。（逆に、中学校ではどこまで高校に情報提供をしてよいのか戸惑いがある）
- ・高等学校で導入される通級指導教室は、どのように対応したらよいのか不安である。
- ・合理的配慮については、保護者から求められたことはないが、どこまでやったらよいのか、どこまでが合理的配慮なのか、よく分からない。
- ・保護者が生徒の特性を認めていると、「個別の指導計画」の作成や支援がしやすい。
- ・スクールカウンセラーを活用しながら生徒の自己理解を促している。
- ・生徒に活躍できる居場所があって、相談できる先生や友達がいると適応しやすくなる。
- ・校内研修会を定期的に計画し、基本的なことや大切なことを全職員で確認したい。
- ・離職率が高いので、進路指導が課題になっている。

【来年度に向けて】

- ・本連絡会に中学校の先生にも入っていただき、引継ぎをテーマに情報交換をする。
- ・研修会は概論的な講話ではなく、自校の生徒の実態を踏まえた講話にする、自校の生徒を事例に取り上げてグループ協議を行うなど、より実践的な内容にする。
- ・保護者の生徒・障害理解を促すために、早期からの相談・支援体制を整備する。また、就業体験を参観したり、現場の人のありのままの評価を伝えたりする。
- ・生徒の自己理解を促すために、就業体験を増やして職業観・勤労観の形成につなげる、本人の内面を理解する面談を定期的に行う、自分と向き合う機会を設ける、他者評価を取り入れてメタ認知を高める。

支援のスタートは、「保護者の気付き」、「本人の自覚」、「周囲の理解」の三つが揃うことです。高等学校では、校内委員会の設置やコーディネーターの指名など共通する対応と、学校事情に合わせた対応が必要です。ケースによっては高等学校特別支援隊をご活用ください。